特定非営利活動法人ジャパンハート

2023 年度 通常総会

議 事 次 第

日時：2023 年 6 月 18 日(日)　13:00～15:00

1.

2.　開会・進行　理事長　吉岡春菜
事務局長　佐藤　抄

2. 理事長挨拶　吉岡春菜理事長

3. 議長選出　出席正会員の中から選出（定款第 24 条）

4. 定足数の確認　（定款第 25 条）

5. 議事録署名人の選任　２名　（定款第 28 条）

6. 議事　議長
第1号議案　2022 年度事業報告の件
第2号議案　2022 度決算報告の件
監査報告
第3号議案　2023 年事業計画(案)審議の件
第4号議案　2023 年予算(案)審議の件
第5号議案　役員改選の件

7. 閉会　議長

第1号議案　　2022 年度事業報告

Ⅰ　組織活動状況

1. 通常総会
　日時：2022年6月19日(日)13:00～15:00
　場所：オンライン上(zoom を用いて開催)
　議事：　理事長 吉岡春菜
　　事務局長　佐藤　抄
　　第１号議案 2021年度事業報告
　　第２号議案 2021年度決算報告
　　監査報告
　　第３号議案　2022年度事業計画(案)審議
　　第４号議案　2022年度予算(案)の審議
　　第５号議案　役員改選
　上記議案について審議され、異議なく承認された。

2. 臨時総会
　日時：2022年9月 26日(月)9:30～10:00
　場所：オンライン上(zoom を用いて開催)
　議事：　理事長 吉岡春菜
　　事務局長　佐藤　抄
　　第１号議案　定款変更
　上記議案について審議され、異議なく承認された。

2. 理事会
(1)第１回理事会
　日時：202 年４月 28 日(木)9:00～10:00
　場所：オンライン上(zoom を用いて開催)
　議事：(議長　吉岡春菜理事長)
　　・2021 年度実績振り返り
　　・2022 年度予算について
　上記議案について審議され、異議なく承認された。

(2)第２回理事会
　日時：2022年 5月 19 日(木)9:00～10:00
　場所：オンライン上(zoom を用いて開催)
　議事：(議長　吉岡春菜理事長)
　　・カンボジアの病院建設に向けた、コングラント社への委託の可否について
　上記議案について審議され、異議なく承認された。

(3)第３回理事会
　日時：2022年 7月 28日(水)9:00～10:00
　場所：オンライン上(zoom を用いて開催)
　議事：(議長　吉岡春菜理事長)
　　・活動に関する特記事項報告
　　・月次財務報告
　上記議案について審議され、異議なく承認された。

(4)第 4 回理事会
日時:2022年 8月 25日(木)9:00～10:00
場所:オンライン上(zoom を用いて開催)
議事:(議長　吉岡春菜理事長)
・活動に関する特記事項報告
・月次財務報告
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(5)第 5 回理事会
日時:2022年9月 22日(木)9:00～10:00
場所:オンライン上(zoom を用いて開催)
議事:(議長　吉岡春菜理事長)
・佐賀事務所移転による定款変更について
・活動に関する特記事項報告
・月次財務報告
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(6)第 6 回理事会
日時:2022年10月 27 日(木)9:00～10:00
場所:オンライン上(zoom を用いて開催)
議事:(議長　吉岡春菜理事長)
・活動に関する特記事項報告
・月次財務報告
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(7)第 7 回理事会
日時:2022 年 11 月 24 日(木)9:00～10:00
場所:オンライン上(zoom を用いて開催)
議事:(議長　吉岡春菜理事長)
・活動に関する特記事項報告
・月次財務報告
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(8)第 8 回理事会
日時:2022年 12 月 22日(木)9:00～10:00
場所:オンライン上(zoom を用いて開催)
議事:(議長　吉岡春菜理事長)
・理事会用資料の様式変更について
・活動に関する特記事項報告
・月次財務報告
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(9)第 9 回理事会
日時:2023年 1 月 26日(木)9:00～10:00
場所:オンライン上(zoom を用いて開催)
議事:(議長　吉岡春菜理事長)
・次年度の予算策定方法について
・活動に関する特記事項報告
・月次財務報告
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(10)第 10 回理事会
日時：2023年2月 22日(水)8:30～9:30
場所：オンライン上(zoom を用いて開催)
議事：(議長　吉岡春菜理事長)
・活動に関する特記事項報告
・月次財務報告
・2022 年 1 月以降の組織案変更について
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(11)第 11 回理事会
日時：2023年3月 23日(木)9:00～10:00
場所：オンライン上(zoom を用いて開催)
議事：(議長　吉岡春菜理事長)
・活動に関する特記事項報告
・月次財務報告
上記議案について審議され、異議なく承認された。

3. 会員状況
2023 年 4 月 1 日現在の会員数

		2022 年 4 月 1 日現在	2023 年 4 月 1 日現在
正会員	医　療　者	326 人	303 人
	一　　般	187 人	172 人
	学　　生	16 人	6 人
	法　　人	53 社	50 社
正会員合計		582 人・社	531 人・社
賛助会員	個人・法人	315・社	276・社

4. 事務局
(1)2023 年 4 月 1 日現在の事務局体制
◇東京事務局(本部)　事務局長以下の正職員 24 名+パートタイム・経理顧問
事務局長　:佐藤 抄
事務職員　:高橋 茉莉子(副事務局長／地域医療・国際緊急救援事業部長/広報・ファンドレイジング部長)
吉岡 春菜(スマイルスマイルプロジェクト事業部長)
伊藤 和子(スマイルスマイルプロジェクト事業部)
山田 友恵(スマイルスマイルプロジェクト事業部)
高橋 萌(スマイルスマイルプロジェクト事業部)
川原 沙菜(スマイルスマイルプロジェクト事業部)
杉山 智哉(管理部長／海外事業本部)
岩田 剛(管理部 経理担当)
竹川 祐子(管理部 総務・労務担当)
飛田 智子(管理部 海外総務担当)
細井 一茂(海外事業本部)
横山　菜々子(広報ファンドレイジング部　マーケティング・支援者サービス担当)
岸美貴子 (広報・ファンドレイジング部　WEB 担当)
渡辺 彬衣(広報・ファンドレイジング部　法人営業担当)

近藤 ゆふき（広報・ファンドレイジング部　法人営業担当）
中山 佳子（広報・ファンドレイジング部　法人営業担当）
川根 ひろみ（広報・ファンドレイジング部　法人営業担当）
上村 可南子（広報・ファンドレイジング部　メディア担当）
松本 愛（広報・ファンドレイジング部　メディア担当）
吉浦　ゆず香（広報・ファンドレイジング部　吉岡秀人秘書/講演会担当）
冨樫 陽子（地域医療・国際緊急支援事業部 地域医療事業担当）
伊藤 千晶（地域医療・国際緊急支援事業部 地域医療事業担当）
武内 三恵 （グローバル人材育成事業部）
鈴木 知美（グローバル人材育成事業部）
石毛 宏一（経理顧問）
気賀　紫都佳（広報・ファンドレイジング部　支援者サービス担当パートタイム）

◇ミャンマー事業地　佐藤 抄（事業部長）
河野 朋子（専門医療活動事業担当者）
那須田 玲菜（DreamTrain 事業担当者）　他スタッフ 67名

◇カンボジア事業地　佐藤 抄（事業部長）
神白 麻衣子（医療活動責任者）　他スタッフ 95 名

◇ラオス事業地　杉山 智哉（事業部長）
吉田 真弓（医療活動責任者）　他スタッフ５名

（2）組織・経営戦略に関する事項

■人事・採用
・採用活動の強化
採用説明会を毎週の開催とし、ウェブサイトの求人ページもリニューアル。求人サイトの掲載なども行い、採用活動を強化。結果、11 名の有給職員の採用を達成。

・人物像の設定
団体に貢献している人物からロールモデルを設定し、職員採用の際に提示できる人物像を明確に作成。採用活動時に、はっきりとどういった人物を求めているのかの提示ができるようになった。

■経理・財務
・前年を上回る寄付金の獲得
受取寄付金について、前年度の結果を上回る額を獲得。期初に立てた予算額も超える結果となった。一方経常費用については前年度よりも増加。これは、コロナ過で止まっていた活動が再開したことによる結果である。そのため、経常増減額については昨年を下回る数字となったが、予算比に関しては大幅に上回る結果となった。

・クラウド会計ソフトへの移行
クラウド会計のメリットは様々あるが特に、銀行データなどの自動読み込みによる自動取込や自動仕訳。また、経費精算ソフトからデータ取込みなどを行うことで、仕訳の入力負担及び入力ミスを軽減し、経理業務の効率化に繋げている。

■組織

・全体交流会の実施
団体のビジョン・ミッション・バリューの浸透および事業間の職員のコミュニケーションの円滑化を目的に行っていた全体会をさらに細分化。全体会と交流会の 2 つに分け、前者では事業の進捗報告や部署目標の共有、後者では職員間のコミュニケーション強化を目的としたプログラムを実施。各 2 時間を、年に 2 回ずつ実施。職員の目的意識を統一すると共に職員間のコミュニケーションの円滑化に寄与した。

・正職員への転換
2022年 7 月 1 日付で、有期契約職員 26 名を正職員へと転換。

・働き方の多様化
一部の部署に属する職員を対象にフレックス制度を導入。緊急時やお出かけ支援業務などを行う際の実態に沿えるよう、フレキシブルに働ける形を整えた。また、各種申請システムの変更・修正を行い、職員 1 人 1 人がより働きやすい職場になるよう、常にアップデートを心掛けた。

Ⅱ　事業活動状況 / 海外

海外事業本部

1. 業務整理
2021 年 10 月より、本格的に始動した本事業部について、当初は海外事業周りの管理業務も本部署の役回りとしていたが、年度途中に再度役割を整理。下半期以降は、「海外事業の運営サポート並びに、新規事業の立ち上げ支援」及び、「事業国以外での寄付獲得に向けあファンドレイジング業務」に重きを置き、事業推進の伴走を主な役目とした。

2. 実績
1)事業
・3 事業地の部長職が不在となる中、海外事業本部でその業務を担当。遠隔及び、現地での中期駐在を行いながら、各事業地の運営を行った。
・各事業地での新規事業開始並びに、コロナ過で止まっていた事業の再開。
-ミャンマー: 新クリニックの設立。ワチェ慈善病院での手術活動再開。
-カンボジア: 日本人外科医による定期的な手術活動の再開。ボランティアの受け入れ。新病院建設プロジェクトの立ち上げ準備。
-ラオス: 小児がん治療に関する新プロジェクトの立ち上げ。甲状腺疾患プロジェクト第 2 フェーズ実施のための、政府との覚書作成サポート。

2)採用
・長期間(半年～1 年間)の活動ができるボランティア獲得に向けた採用活動を実施。
定期的な医師向け説明会の開催や、現地で活動する医師によるオンライン報告会といったイベントを開催。
・22 年度に海外事業地での駐在を開始したスタッフ、ボランティアは下記の通り。

☆22年度開始駐在者
・医師:11 名
・看護師:11 名 (グローバル人材育成事業の対象者含む)
・助産師:2 名 (同上)
・栄養管理士:1 名
・調理師:1 名
・放射線技師:3 名

・臨床検査技師：１名
・インターン：6 名

ミャンマー

1. 医療活動

1）ワッチェ慈善病院を拠点とした医療活動

・2022 年 7 月よりワチェ慈善病院での日本人医療者の渡航による本格的手術活動を再開し、外来 5,568 件および手術 873 件を実施した。また提携先のティーサウン病院およびヨワガン病院にて、外来 1,658 件および手術 341 件を実施した。
・政変後の医療従事者の職務放棄によって手術を受けられずにいる小児がん等の患者の受け入れを、マンダレー子ども病院の小児科医との連携の元に開始した。それに伴って重症症例患者の受け入れのための ICU をワチェ慈善病院内に整備した。
・2023 年１月、医療崩壊や経済状況の悪化によって医療が受けにくくなっている人々や、ワチェ慈善病院へのアクセスが難しい地方の人々へも医療を届けることを目指し、ヤンゴン郊外に「Rainbow Bridge Clinic」を開院した。

2）専門家による手術ミッション（手術活動）

・2022 年 9 月より日本人口腔外科医を派遣しての口唇口蓋裂総合治療事業を再開し、4回にわたり現地医療者への手術技術指導および 15 件の口唇裂・口蓋裂の手術を実施した。
・ヤンゴン子ども病院の医療人材不足のサポートのため、手術室に3ヶ月間にわたり日本人看護師1名を派遣した。

3）小児心臓病サポート活動

・新型コロナ感染症による渡航制限および政情不安により、日本人専門医療チームの派遣はなし。（停止中）

4） 透析サポート活動

・今年度の動きなし。

2. ミャンマー医療人育成活動

・新倉会の協力のもと、奨学生５名（医学生２名・看護学生３名）の支援を行った。

3. 社会福祉関係

1）養育施設 Dream Train（ドリームトレイン）

・新たに児童 24 名を受け入れ、在籍人数は合計 118 名である（2023 年 3 月末時点）
・2021 年度までに実施してきた情操教育プログラムを継続すると共に、新たに STEAM 教育・Well Being アクティビティを強化した。提供されたプログラムは、デジタルアート・文学・水泳・ピアニカ・ストリートダンス・ヨガ・心理社会的サポート・ビジネス基礎など多岐に渡る。
・2023 年１月、施設初となる短期語学留学生が約 3 ヶ月間沖縄に滞在。これを契機に施設全体の日本語学習意欲が高まり、3 月以降、合計 73 名の児童が日本語学習を行っている。なお、7 月に日本語検定試験を受験する児童数は、24 名（N2 レベル-1 名、N3 レベル-1 名、N4 レベル-9 名、N5 レベル-13 名）である。
・奨学生として、7 名の児童がインターナショナルスクール ICEC の小学部に入学した。
・現地在住の日本人 2 名をインターンとして採用した。

2)ミャンマー視覚障がい者自立支援活動

・2022 年 6 月、2年間中断していた医療マッサージ習得のための 1 年コースを再開し、16 名の視覚障がいを持つ学生を受け入れ、15 名が無事に修了した。

・政情不安から、日本人専門家を派遣してのセミナー等の実施はなし。

3)サイクロン孤児支援活動 (*2008 年にミャンマー南西部を襲ったサイクロン「ナルギス」)

・24 名のうち 16 名は学業の修了および中断により支援終了となり、8名の子どもの教育・医療面でのサポートを継続している。

カンボジア

1. 医療活動

1)ジャパンハートこども医療センター

2016 年度に開業した病院を 2018 年度に拡張し、小児診療部門を強化した。同年 8 月に小児がん治療を開始以降、カンボジア国内全土からがん患者が集まり、治療を受けている。

2020 年度に引き続き 2021 年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、毎年日本から短期で訪れ、医療活動を行っていたボランティアの渡航が困難な状況が続いた。

また 2021 年度はカンボジア国内での感染が拡大し、患者の来院数自体にも大きく影響。当院でも数回院内感染が発生した。その結果、日本人の渡航だけではなく現地での医療活動そのものも制限せざるを得なかった。

ただ、従来提供していた治療の現地スタッフでの継続に加え、職員の感染対策やクラスター発生時の勤務体系など困難な環境が続いたことで、現地医療者の技術向上に加え、病院の運営や感染対策など医療技術以外の面でも大きな成長が見られた。2022 年度は、新型コロナウイルスの水際防止策の緩和に伴ない、外来診療数、手術件数ともに 2021年度の実績を大きく超える結果となった。2022 年度のジャパンハートこども医療センター診療実績は表 1 のとおりである。

表 1. 20222度 診療実績

	2022年度			2021 年度			2020 年度		
	成人	小児	合計	成人	小児	合計	成人	小児	合計
外来診察件数	16,727	3,299	20,026	9,645	1,629	11,274	14,932	2,609	17,541
手術件数	620	179	799	376	84	460	772	221	993
妊婦検診件数	1,892		1,892	766		766	3,499		3,499

小児がん治療においては、今年度の新規入院患者数は 86 名と、昨年度の 64 名から大幅に上昇、コロナ禍以前からの推移をみても、年々その数は増加の傾向を示している。 小児がんの患者数が増加傾向にある理由は下記の 3 つが考えられる。

1. **他医療機関からの紹介例増**
   カンボジア国内の主要病院との連携が深まることで、小児固形腫瘍の患者に関してはジャパンハートこども医療センターを紹介される事例が増えている。例えば、クンタポッパ病院(プノンペン、シェムリアップ)は、ジャパンハートのこれまでの小児固形腫瘍の治療実績を評価し、同患者に対しては積極的にジャパンハートでの治療を勧めてくれている。クンタポッパ病院は小児がんに関して、ジャパンハートでは治療できない白血病を診ることができるため、固形腫瘍はジャパンハート、白血病はクンタポッパ病院で、と相互に補完しあう関係性が構築できつつある。

2. 渡航制限により、患者がカンボジア国外で治療を受けることが難しくなった

カンボジアでは難しいとされていた小児がん治療は、これまで多くの国民が隣国のタイやベトナムの病院で治療を受けていた。しかし新型コロナウイルスの世界的流行にともなう感染拡大で渡航が難しくなり、国内での治療を患者が当院を受診した。

3. カンボジア国内での知名度の向上

上記、1, 2の活動に加え、Fecebook などカンボジアで人気の SNS で病院の活動を紹介することで、ジャパンハートこども病院の認知度が徐々に高まってきている。多くのフォロワーを抱えるインフルエンサーが当院の医療活動を全面的に応援し、当院を紹介する投稿を定期的に行ってくださったことをきっかけに当院を受診したケースもある。

2022年度の小児固形腫瘍（腎芽腫、肝芽腫、神経芽腫等）の新規入院患者数は 86 名と前年に引き続きコロナ禍前よりも多い状況が続いている。2019 年度は、連携している日本の 5 つの医療機関（大阪大学、鹿児島大学、九州大学、慶應義塾大学、岡山医療センター）から小児外科専門チームを招聘し実施していたが、コロナ禍で渡航が困難となった間は最高顧問吉岡が複数回カンボジアに渡航し、小児がん手術を実施した。また、長期ボランティアの小児外科医が 2021 年 4 月から 2023 年3月まで常駐したことで、吉岡不在時においても、小児患者の手術を継続的に行うことができたため、現地スタッフの経験を積むことができた。

ジャパンハートこども医療センターに勤務する職員数は表 2 の通りである。

表 2. 職員数（2023年 4 月現在）

	医師	看護師	助産師	コメディカル	非医療職員	計
日本人	5	7	3	1	6	22
カンボジア人	10	34	5	2	36	87

対前年同月比でカンボジア人スタッフの人数は 7 名増（医師＋1名、看護師+5 名、他1名）であった。一方で 2022 年12月に行われた新規公務員採用試験の影響を受け、カンボジア人スタッフの退職が相次いだ。採用活動を積極的に進めたことにより、総人数では人員の減少は防げたものの経験年数の少ない医療スタッフの比率が増加している。今後は、人材をいかに早く育成していけるか、育成計画の確立と教育システムの構築が喫緊の課題となっている。
（なお、医療者は日本人ボランティアが中心で、月によって人数の変動が大きい。上記は 4 月末時点の人数を参考値として記載したものである。）

2）農村部への巡回診療活動

2021 年度はカンボジア国内における新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、巡回診療活動を実施することが困難な年であった。2022 年 1 月から少しずつ活動を再開、8月から活動を本格的に開始した。2022年8月から2023年3月の8か月の期間にモバイル外来診療を8回実施し、延べ 1,140 名の患者の診療を行った。ジャパンハートこども医療センターと同じ地区内にある各ヘルスセンターへの出張も再開し始めており、栄養、母乳育児等についての講習も 77 名に対し実施した。

3）栄養管理事業

2019 年 10 月より運営を開始した給食センター―では入院している全小児がん患者を対象に年中無休で衛生的な食事を提供している。また、栄養士の指導の下、各小児がん患者の栄養状態や喫食率をアセスメントし、病状に合わせた食事を提供している。2021 年度にカンボジア人栄養士が入職して以降、アセスメントの精度が上がりより細かい食事改善が行えるようになった。また、院外におけるカンボジア人への栄養教育も実施が容易となった。病院に勤める職員へも安全で栄養バランスが考慮された食事を提供し、万全なコンディションで医療に携われるようサポートしている。現在日本人栄養士 1 名、カンボジア人栄養士1名、調理師6名で運営している。

2. 医療学生支援活動

2022 年度は、カンボジアプレイベン州内の 5 つの高校から奨学生を募集し、5 名の候補を選抜したものの、残念ながら 2 名が大学入学試験に不合格となってしまい、結果的に 3 名（医師1名、看護師2名）の新規支援を開始した。 在籍奨学生は計 23名（医学部生 16 名、看護学部生 7 名）となり、全員が日本人の里親に支援を受けながら通学している。また、2022 年度に医師2名、看護学部生 3 名が大学を卒業し、医療スタッフとしてジャパンハートこども医療センターにて勤務を開始した。この 5 名の卒業生を含む本奨学金事業の卒業生は、累計医師 6 名、看護師 16 名となった。

ラオス

1. 医療活動

・ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療プロジェクトについて、2022 年 6 月に約 2 年半ぶりとなる、最高顧問の吉岡秀人医師による手術活動を実施。17 件の手術を実施し、全員が無事に退院となった。同手術活動をもって、から始まったプロジェクトが一旦終了。延べ 644 人の診療と、70 件の手術活動を実施。
・現地人医療者のさらなる技術向上並びに、手術待ちをしている患者さんへの手術提供のために、新たに 3 年間のプロジェクトを実施することに決め、政府との覚書を提出。2023 年度内に承認予定で、承認され次第活動を再開。
・ラオス国内の小児がん患者に対する治療並びに、現地医療者への同分野における技術提供を目的とした新プロジェクトの実施を決定。ラオス国立小児病院をパートナー病院と定め、内容の精査を行い、プロジェクトを構築。（2023 年 4 月に、政府との覚書を提出。申請期間は約 8 カ月の見込み）
・個人診療では、2 名のサポートを継続している。

地域医療支援・国際緊急救援事業

2022年度は、国際緊急救援事業においては台風 14 号・15 号災害を受けて宮崎県・静岡県での物的支援活動を実施したことに加え、新型コロナウイルス感染症対策として①クラスター施設等への医療チーム派遣、②物的支援、 ③濃厚接触者隔離施設の独自運営を昨年度に引き続き実施した。また、地域医療支援事業として RIKA Job の派遣者数増加に関する施策を継続実施した。

1. **自然災害時医療チーム派遣**

（1）台風 14 号による影響で、宮崎県北部での主要道路寸断により孤立した宮崎県椎葉村に対し、9 月 22 日に先遣隊を派遣し、消毒ジェル 120 本、水 500ml 150 本、マスク 240 枚、ビスケット 180 個、携帯トイレ 220 個を、村内の社会福祉協議会へ寄付した。
（2）台風 15号による影響で、大雨・暴風による土砂崩れなどで断水が続く静岡県清水区に対し、9 月 27 日に先遣隊を派遣し、現地の福祉施設 4 件を訪問。内、災害用の非常食でしのいでいる 2 施設に対し、合計でレトルト介護食 288 食分、飲料水 48 リットル、手指消毒用アルコール 10 リットル（1L×10）を直接現場へ寄付した。

2. **新型コロナウイルス感染症緊急救援**

人的支援

2021 年 4 月以降、2022 年 9 月末までに、全国 17 都道府県201 か所の医療機関/施設に看護師を中心とする医療チームのべ 485 名を派遣した。派遣先では、コロナ病床やクラスターとなった機関の欠員補填に加え、 感染制御のための PPE 着用やゾーニングに関わる指導等、多岐にわたる活動を実施。また、兵庫県等の医療/福祉関係協会から、感染対策研修の依頼等を受け講師人員の派遣も行った。

物的支援

（1）2021 年 2 月にアクセンチュア株式会社と共同開発した寄付物資マッチングプラットフォーム「Heart Stock」では、累計 184 件（内、2022 年度 50 件）のマッチングが成立した。

（2）コカ・コーラ財団からの支援を受け、全国に新型コロナウイルス感染症対策として感染防護具を寄贈。2022 年度は全国451件の医療機関/福祉施設に対して、ガウン約370,000 枚、N95 マスク約75,000 枚、プラスチックエプロン約1000,000枚となった。

濃厚接触者隔離施設
2021 年 11 月より、沖縄県宜野湾市に濃厚接触者隔離施設を開設した。これは、介護が必要な新型コロナウイルス感染症濃厚接触者が、クラスター施設ないし自宅に取り残されてしまう課題に対して、感染症対策の文脈では行政や医療機関の介入が難しい背景を受け、濃厚接触者自身の安全性を守ること、介護者の負荷を減らし感染拡大を防ぐことなどを目的として独自に開設。2022年 9 月の閉所までに、計40名（入院日数のべ323日）の要介護濃厚接触者の利用があった。

3. iER ボランティア登録制度

更新制度の変更
2023 年 3 月末時点での有効ボランティア登録者数は計 160名。

新規登録数
・第9回研修（7月 2 日（土）7 月 3 日（日））東京会場 15名、オンライン10名
・第10回研修（12 月3日（土）4日（日））オンライン8名＋海外研修生 7 名

既存登録者ステップアップ研修
2021 年度より、既存登録者向けの更新要件も満たす研修を開始した。医療従事者向け、ロジスティクス向けとして各年 2 回（計 4 回）実施予定
・医療ステップアップ研修（8月 7 日（日））オンライン16名
・ロジスティクスステップアップ研修（10月 1 日（土））東京会場 12名
・医療ステップアップ研修（2月12日（日））オンライン20名
・ロジスティクスステップアップ研修（3月 18日（土））東京会場 18名

4. 国内外ネットワーク作りと強化

自治体との協定
2022年 11 月に沖縄県との災害時包括支援協定締結式を実施。2020 年度に熊本県と締結したものと同様、大規模自然災害・感染症拡大時における将来的な支援ニーズが発生した際、より迅速な対応を可能とするもの。

学会発表
2023年 3 月9日（木）～11日（土）にかけて、日本災害医学会で3本の口演実施と 1 本のポスター演題発表を実施した。

5. RIKA Job

2018 年度に立ち上げた RIKAjob 事業は、国内離島・僻地で課題となっている看護師不足に対して、人材支援として看護師の紹介事業を実施。19病院との提携があり、各病院の必要派遣者数を補えることを目標とし、広報活動に従事。

派遣状況
2022 年度派遣者数：のべ 40 名（内、海外研修生 8 名）
月次ベース累計派遣者数：年間 420 人月（平均勤務期間 10.5 カ月）

看護師募集の強化
（1）オンライン個別相談会の実施：年間32件
（2）RIKA 説明会の実施（年4回）：計のべ144名

（3）RIKAjob の資料をダウンロードした方に対してメールマガジン配信＋LINE 利用開始

Ⅱ. 事業活動状況 / 国内

SmileSmilePROJECT（SSP）

昨年に引き続き、多くの企業から事業への寄付、協賛イベント実施のご相談をいただき、コロナ渦で可能な限りの感染対策を実施し、安心してご家族に事業を利用していただくことができた。個別企画29件、イベント8件、一休宿泊企画7件、合計236名のご家族に事業を利用していただいた。参加ボランティアは187名であった。

1. 協力企業との協働企画を実施

昨年度から感染症対策を講じながらイベント実施をする経験を積み重ね、15件の招待イベントを実施することができた。

①6月　ハウステンボスご招待企画
新日本製薬株式会社の協賛で九州にお住まいの小児がんと向き合うご家族7組をご招待した。
新日本製薬株式会社の社員さま、SSP サポーターに参加いただいた。

②6月　キッザニア甲子園ご招待企画
大阪西ロータリークラブの協賛で、6組のご家族をお迎えして実施した。

③6 月　鹿島アントラーズサッカー観戦ご招待企画
大和証券の協賛のもと、鹿島スタジアムで実施されるホームゲームに2組のご家族をお迎えして実施した。大和グループの関連会社である KASSAI の投げ銭システムを利用してこの試合をチャリティーマッチとして一般のお客さまから投げ銭を受けつけ、選手のユニフォームなどのグッズ購入を通して寄付を募ってくださり、3,602,749 円のご支援をいただいた。

④8月　キッズセミナー
アッヴィ合同会社のご支援で、小児がん経験者を4組招待しキッズセミナーを開催した。
製薬企業らしい内容で、薬剤に関するクイズラリーや実験を体験していただいた。

⑤10月　コーヒーセミナー
シスメックス株式会社の協賛とタリーズコーヒージャパンの協力で、3組（1組はオンライン参加）のご家族をお迎えして実施した。いずれも同じ病院で同じ時期にご入院されていたご家族で、同窓会のような雰囲気でコーヒーとお菓子を楽しんでいただくことができた。

⑥11月　キッザニア東京ご招待企画
クォンタムジャンプ株式会社の協賛で、7組のご家族をお迎えして実施した。
医療的ケアが必要なお子さまも体験したいお仕事をリストアップし、ボランティア社員さんと一緒にたくさんのお仕事を経験することができた。

⑦2月　キッザニア甲子園ご招待企画
シスメックス株式会社の協賛で、6組のご家族をお迎えして実施した。
館内は今までになく空いており、どのお子さんもやりたいお仕事を体験するとこができた。

⑧2月　LIVE EMPOWER CHOLDREN コンサートに参加
エイベックス主催のチャリティーイベントの寄付先にエントリーし、小児がん経験のあるお子さんファミリーを複数ご招待いたいだいた。寄付は 4,072,948 円を参加団体に6月中に分配される予定。

⑨一休ご招待イベント（全国7都道府県で実施）

株式会社一休のご支援で小児がんと向き合うご家族にお宿を提供し、非日常的な時間をご家族で過ごしていただく1回1組限定の招待企画。7件実施した。

2. 個別企画への対応

・個別企画は感染症の動向に配慮しながら、ニーズに合わせて実施し、79件の問い合わせをいただき、29 組のご家族を希望の場所に医療者同行のもとお連れすることができた。
感染症の影響なのか不明だが、限られた時間のなかでご依頼をくださるご家族や医療者が多い印象であった。お
・問い合わせはご家族から HP 経由でいただくケースが多く、ご家族のネットワークでかなり活動が浸透しつつある印象を受けた。

3. 広報活動

・2020 年度に改定予定であったパンフレットをご家族向け、一般向けの2種類作成した。

・小児がん拠点病院15箇所全てと顔の見える情報交換をできるようになった。

・企業の SDGs の取り組みの一環で社内講演会を依頼されるケースが増え、複数の企業で実施。

・活動報告会
2022 年度の活動報告会を WEB で実施。今回は支援企業の社員さまにも参加していただき、企業同士の横の繋がりが生まれ、お互いの普段の支援方法の共有をしていただくことができた。
・ボランティア説明会を定期開催し、活動に参加を希望する登録サポーター100 名を目指し，
結果的には 163 名が登録してくださった。

Ⅲ. グローバル人材育成事業

グローバル看護師・助産師人材開発/実践コース（旧国際看護師・助産師研修）

1. 事業実績

・参加状況（延べ人数）

項目	2022	2021
看護師コース	17 名 （57-61 期）	22 名 （54-59 期）
助産師コース	5 名 （3-6 期）	5 名 （3-5 期）

2. 取り組み

1） 事業部自体の目的をアップグレード

全ての人が生まれてきてよかったと思える社会を、看護師・助産師とともに実現するために、彼らの能力開発や社会進出をサポートすることを事業目的に設定した。

2）看護師・助産師の能力開発を目的とした研修内容へのアップグレード

主力の事業である看護師・助産師を対象とした「国際看護師・助産師研修」は、「グローバル看護師・助産師人材開発/実践コース」に名称を変更。彼らが持つ能力の開発、最大化を目的にコース内容を見直し、ジャパンハートのビジョン・ミッションを体現できる人材の育成を目的とした。そして開発したい能力をより具体化し、国内・海外活動前・途中に定期的に行う各研修はそれに沿った内容に改良、さらに研修後には都度アンケートを実施し、フィードバックをもらうことで内容のブラッシュアップを重ねた。また、目標設定シートに

KPT を追加し、目標をより達成やすいよう改良したほか、臨床推論能力強化に向けた外部講師による研修の導入、各活動地スタッフとの連携強化に取り組んだ。

3)コース受講者のサポート強化

コロナ禍により海外活動地へ渡航できない期間が続いたが、2022年度はコース受講生も順次、海外活動を開始した。また各研修の対面での実施を再開したり、人材育成事業スタッフがカンボジア・ミャンマーへ出張に行き、直接、コース受講生へ指導や面談を実施することで信頼関係の構築に努めた。また受講生が課題に行き詰ったときなどは、速やかにコミュニケーションを図り、現地スタッフと連携するなど早期対処を心掛けた。

Ⅳ. 広報・ファンドレイジング事業

国際医療短期ボランティア・ツアー

2020 年 3 月から新型コロナウイルス感染症の影響で受け入れを停止していた短期ボランティアの受け入れを、2022 年 9 月よりカンボジアで再開し、2022 年度は医師・看護師が合計 33 名参加した。また 2023 年 3 月にはツアーの運営を再開し、カンボジア看護師・看護学生ツアーに 7 名が参加した。

広報活動

1. 支援拡大へ向けた団体の認知拡大、社会価値向上

1) 着任・受賞(2022年度)

3 月　令和 4 年度大山激励賞(「ジャパンハートこども医療センター」院長　神白麻衣子医師)

2)テレビ番組への出演(2022 年度)

6 月　RIKAjob 看護師 「あしたの内村!!」(フジテレビ)
9 月　RIKAjob 看護師 「スーパーJ チャンネル(テレビ朝日)
11 月　嘉数真理子医師 「グッと地球便」(読売テレビ)

3)書籍出版

12 月 最後の講義 完全版 吉岡秀人 人のために生きることは自分のために生きること(主婦の友社)

4)そのほかメディアへの主な出演、掲載(2022 年度)

4 月　文芸春秋　最高顧問吉岡秀人　巻頭随筆
6月　東加古川病院新型コロナウイルス感染症対応記録集　記事掲載
3月　DHEAT 活動ハンドブック(第2版)　支援団体
※その他クラスター支援などとして、各地メディアに登場
朝日新聞/読売新聞/琉球新報/沖縄タイムス/北日本新聞/神戸新聞ほか

5)AC ジャパン支援キャンペーン採択継続

2019 年 7 月より 2022 年 6 月まで AC 支援キャンペーンに採択され、テレビ CM 放送、新聞広告、
電車の窓上・ 中吊り広告、駅貼りポスター、シネアド(映画館での CM 上映)での露出を実施。

6)イベント・その他展開

5 月　オンラインイベント『国際看護師の日スペシャル～途上国の医療現場から～』開催
10 月　音楽フォトグラファー・内藤順司氏と最高顧問吉岡秀人の対談イベント
11月　一般社団法人ミャンマー祭り主催「エール・フォー・ミャンマー」に吉岡春菜理事長登壇
1 月　小児がん治療支援チャリティーライヴ「LIVE EMPOWER CHILDREN 2023 supported by 第一生命保険」参加

2. アカデミア(教育機関・学会)での団体の社会価値啓発活動

1)吉岡秀人最高顧問の主な講演実績(2022年度)

内分泌外科学会招待講演

芝浦工業大学附属中学高等学校
江戸川学園取手中学高等学校
新宿区地域福祉課　民生委員事務局
立川国際中等教育学校　ほか

2)職員の講演実績(2022年度)

明治大学
鹿児島情報高校
静岡東高等学校
佐賀県立佐賀西高等学校
SYD(公益財団法人修養団)
国際医療福祉大学
同志社大学
埼玉県立安行東中学校
奈良県立青翔中学校・高等学校
埼玉県立安行東中学校
神戸学院大学(防災社会学)　ほか

3)教育機関の職場訪問受け入れ(2022 年度)

創価中学校
筑波大学付属高等学校
宮城県立仙台第二高等学校
長野日本大学中学校
高知商業高校
富士見高等学校
大分県立高田高等学校　ほか

3. 吉岡秀人最高顧問等による全国後援会活動

オンライン及びハイブリッドを中心に、引き続き実施。

4. 報告会・説明会などの実施

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、引き続きイベントはオンラインにて実施、新型コロナウイルスに対する活動の説明会などを実施した。また離島・僻地医療の医療支援として、継続的に医師・看護師・コメディカルの相談会を実施している。

5. デジタルマーケティングの強化実施

1)オウンドメディア

自団体の web サイト、SNS(Twitter、Facebook、インスタグラム、YouTube)での発信を頻度を上げて実施。

2)WEB 広告:

Yahoo,Google の主要アドネットワークの露出、及び　Facebook など SNS 上での広告を行った。

3)分析と効果最大化

Google アナリティクス、Google サーチコンソール、ヒートマップ(各無料版)にて、解析を実施、効率的運用を図っている。

ファンドレイジング

1. マンスリーサポーター(月額寄付者)獲得強化

財務状況の安定化を図るため、月額寄付者の増加を目指し、以下の寄付が価格帯を継続している。

1) 寄付金額:3000 円、1万円、10 万円の3つに限定
2) ジャパンハート部:マンスリーサポーターのうち約 300 名が参加

2. 法人へのアプローチ

東京証券取引所の上場区分の再編を受け、各企業が社会貢献の CG 開示が必須となる中、日本政府主催の SDGs アワード受賞を追い風に、CSR の展開を検討している法人に対し、積極的にプログラムのご案内を行った。また、内閣府クールジャパン官民連携プラットフォームに参画し、日本企業との連携を図っていく。

例）

1）**ダイワボウ株式会社様からのご支援**

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、昨年度に引き続き、ジャパンハートに医療支援費として 1 億 5 千万円をご寄付頂いた。

2）**KDDI 株式会社様からのご支援**

2022 年 10 月 1 日から同 31 日まで実施する「#ちょっといいことにふれよう」プロジェクトの寄付先に選定され、新型コロナウイルス感染症対策に取り組む医療従事者の支援に活用させて頂いた。

)米コカ・コーラ財団(The Coca-Cola Foundation)からのご支援

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、クラスター支援活動費として、約 1 億 4000 万円をご寄付頂いた。コロナ禍で対応にあたる全国の医療関係者への、ガウン、マスク、フェイスシールド等の PPE 提供などを購入。2022 年度に配布完了した。

3. ふるさと納税の継続

佐賀県内の旅館 2 か所と契約のうえ、宿泊券を返礼品として追加。約650 万円の応募を頂いた。

4. 遺贈への取り組み本格化

1)外部専門家に支援を受け、各ツール類の改訂、体制構築を開始。

2)遺贈、相続財産寄附を含めて計約 2500 万円を受領した。

5. その他

・制作物の作成・配布(年次報告書、春・夏・秋・冬ダイレクトメール、遺贈リーフレット)

・プレスリリース配信(週2～3本)

・メールマガジン配信(月 2～3回)

支援者サービス

支援者サービス部門強化

マンスリーサポーター様や里親様へのお礼として、新型コロナウイルス感染症の流行以来、初めて支援者様向けのイベントを開催した。また、アンケートやヒアリングを通して支援者様とのコミュニケーションを改善するための調査を実施した。

お問い合わせ対応、領収書発行業務、活動報告の発信、感謝状の贈呈などの日常業務においては、更なる質の向上を目指した業務改善に取り組んでいる。

第2号議案

2022年度　決算報告

2022年度　活動計算書

税込表示

2022年4月1日から2023年3月31日まで　（単位：円）

科目	前年度決算額	今年度決算額	決算に関する特記事項	予算対比	当初予算額
経常収益					
受取会費	18,709,007	18,080,000		2,740,000	15,340,000
受取寄付金	702,610,172	749,368,244	ダイワボウ情報システム㈱より1億5千万円の大口寄付があった(前年、前前年1億円）。佐賀県ふるさと納税による寄付金が総額87百万円に達した	▲ 16,622,719	765,990,963
受取助成金等	205,559,917	26,836,170	前年度は日本コカ・コーラ財団より1億43百万の助成金を受領。また日本各地でのクラスター施設に対する医療支援活動に対する各都道府県からの助成金の支給があった。今年度の大半はクラスター関連の助成金であった	2,400,970	24,435,200
事業収益	34,972,256	11,522,484	前年度の参加費の大半は長期看護師研修の参加費(32百万円）であり、今年度は6百万円と減少	▲ 10,461,516	21,984,000
その他収益	26,241,334	45,367,102	円安ドル高で海外の外貨預金の評価額上昇による差益43百万円（前年度は24百万円）。その他に受取利息189万円	45,367,102	0
当期経常収益合計　A	988,092,686	851,174,000		23,423,837	827,750,163
経常費用					
【事業費】	424,574,033	612,066,271		-59,947,581	672,013,852
人件費	165,605,772	248,386,107	賃金引上げ、職員の増加による人件費増加。海外の給与の円換算が円安により大幅増加	▲ 26,897,656	275,283,763
顧問・アドバイザー料	600,000	739,913	iER顧問料40万円(前年度60万円)	219,913	520,000
業務委託費	42,730,299	6,811,870	前年度の主な経費はクラスター対策診療応援日当　3,536万円。今年度は通常の経費のみ	▲ 5,622,818	12,434,688
通信運搬費	5,048,820	21,107,456	iERの活動資材を保管配送するための横浜倉庫の費用1,420万円	14,864,803	6,242,653
医療器具・備品費	566,532	2,895,774	ミャンマーの経費が0円から157万円に、カンボジアの経費が54万円から112万円に増加	▲ 131,549,226	134,445,000
医療支援費	28,811,705	53,931,878	医療事業拡張による全体的な費用増加	▲ 6,841,138	60,773,016
学業支援費	6,963,705	12,303,113	Dream Train435万円、夢の懸け橋539万円	1,763,113	10,540,000
子ども支援費	18,874,500	17,304,395	Dream Train 1,277万円 Smile Smile 440万円	▲ 2,844,525	20,148,920
旅費交通費	36,776,638	36,416,263		▲ 6,355,039	42,771,302
水道光熱費	6,043,174	7,792,774	カンボジア病院の水道光熱費が前年の406万円から626万円に220万円増加	▲ 103,219	7,895,993
広告宣伝費	31,912,118	12,570,922	前年の公益社団法人ACジャパンの日本の心2021年度キャンペーン製作費 2,000万円が今年度はないので減少	▲ 3,710,968	16,281,890
研修費	201,124	1,157,881	医療推進ワークショップコンサルタント料98万円	▲ 1,277,119	2,435,000
会議費	370,986	639,442	コロナ前の状況（脱ズーム）に戻る過程	283,543	355,899
接待交際費	105,018	239,898	同上	86,898	153,000
消耗品費	20,607,680	116,323,885	エフメディカルエクイップメントPPE購入費用、ガウン、N95マスク　9,150万円	106,998,989	9,324,896
食材費	8,375,640	13,384,993	カンボジアの食材費1,131万円(366万円増加)	3,113,923	10,271,070
新聞図書費	29,006	37,943		▲ 571,057	609,000
印刷製本費	2,340,349	2,561,688		▲ 873,256	3,434,944
セミナー・イベント開催費	125,680	52,948		▲ 226,052	279,000
海外スタディツアー開催費	0	0	今年度もツアー開催なし	0	0
工事・修繕費	1,432,035	4,485,490	カンボジア病院253万円（前年比204万円増)、Dream Train122万円(58万円増）	▲ 1,622,510	6,108,000
賃借料	5,258	339,594	主にミャンマー専門医用カーレンタル料	339,594	0
地代・家賃	10,649,468	13,450,419	ウエラ沖縄隔離施設家賃234万円（前年より128万円増)、海外の家賃を円換算した際の円安による増加約150万円	1,428,419	12,022,000
車両費	2,909,928	4,844,971	ミャンマーの経費が216万円から350万円に大巾増加	403,329	4,441,642

保険料	2,267,518	3,091,309	海外旅行傷害保険料増加	▲ 110,951	3,202,260
諸謝金	585,579	264,411		104,411	160,000
諸会費	158,819	345,719		110,719	235,000
リース料	192,700	307,000	沖縄濃厚接触者隔離施設支援用レンタルカー24万円	307,000	0
支払手数料	1,231,788	2,412,091	AMAZON WEB AWSサーバー利用料(57万円)新たに発生、海外の経費が18万円から81万円に増加（賃借物件斡旋手数料等）	▲ 5,417,688	7,829,779
雑費	617,632	358,573	PCR検査費用15万円(前年度は59万円)	93,573	265,000
寄付金支出	0	0		0	0
租税公課	834,653	784,991	カンボジアrental tax 65万円	234,854	550,137
期首書籍	1,246,221	1,021,247			
当期書籍仕入高	203,280	115,500			
他勘定振替		▲ 102,798	贈呈した書籍の原価を広告宣伝費に振替		
期末書籍	▲ 1,021,247	▲ 810,666			
書籍販売原価	428,254	223,283		223,283	0
減価償却費	27,171,655	26,499,277		3,499,277	23,000,000

【管理費】	44,545,034	38,853,929		3,042,379	35,811,550
人件費	22,114,163	15,774,735	海外事業共通費の振替は今年度は発生しなかった（前年度は428万円）	2,044,935	13,729,800
業務委託費	3,526,019	3,314,644		▲ 185,356	3,500,000
通信運搬費	885,672	997,829		147,829	850,000
水道光熱費	332,693	472,698		112,698	360,000
旅費交通費	42,332	86,004		▲ 25,996	112,000
広告宣伝費	0	880,000	職員求人広告費	880,000	0
研修費	0	0		0	0
会議費	2,473	3,045		▲ 1,955	5,000
接待交際費	0	0		0	0
消耗品費	2,137,581	1,162,879	ふるさと納税謝礼65万円パソコン代34万円	▲ 337,121	1,500,000
新聞図書費	0	0		0	0
印刷製本費	420,166	275,811	複合機パフォーマンスチャージ	▲ 84,189	360,000
工事・修繕費	199,500	13,200		13,200	0
賃借料	0	0		0	0
地代・家賃	4,432,200	5,414,070	佐賀事務所新規借入（78万円）が増加の主因	738,630	4,675,440
保険料	63,020	122,660		67,350	55,310
租税公課	51,578	10,719		▲ 49,281	60,000
諸会費	125,000	139,800		▲ 145,200	285,000
リース料	117,648	34,056		▲ 5,944	40,000
支払手数料	8,848,826	9,511,356	ROBOT PAYMENTカード決済手数料748万円、振込/海外送金手数料66万円	▲ 188,644	9,700,000
雑費	571,059	63,560		▲ 13,440	77,000
雑損失	1,170	98		98	0
減価償却費	558,334	576,765	東京事務所用のパーテーション　及び備品の減価償却費	576,765	0
為替差損	0	0		▲ 502,000	502,000
租税（消費税）	115,600			0	0
当期経常費用合計　B	469,119,067	650,920,200		▲ 56,905,202	707,825,402

当期経常増減額　A－B	518,973,619	200,253,800		80,329,039	119,924,761
経常外収益					
【経常外収益】					
固定資産売却益	29,240,901				
前期損益修正益		5,251,885			
経常外費用					
【経常外費用】					
前期損益修正損	0	6,417,623			
過年度受取参加費返金	805,922				
過年度受取助成金返金		3,367,183			
税引前当期正味財産増減額	547,408,598	195,720,879			
法人税・住民税・事業税	70,000	100,000			
当期正味財産増減額	547,338,598	195,620,879			
前期繰越正味財産額	799,113,953	1,346,452,551			
次期繰越正味財産額	1,346,452,551	1,542,073,430			

令和4年度　貸借対照表

令和5年3月31日現在

（単位：円）

科　目	金	額	
Ⅰ．資産の部			
1　流動資産			
現金預金	1,197,291,148		
書籍	810,666		
前払費用	3,716,764		
立替金	295,072		
仮払金	843,228		
未収金	16,299,597		
流動資産合計		1,219,256,475	
2　固定資産			
(1)有形固定資産			
建物	222,373,566		
建物付属設備	32,698,372		
構築物	10,582,312		
車輌運搬具	3,877,796		
工具器具備品	23,928,765		
土地	406,029		
建設仮勘定	4,855,308		
有形固定資産計	298,722,148		
(2)無形固定資産			
ﾐｬﾝﾏｰ土地賃借権	17,065,397		
無形固定資産計	17,065,397		
(3)投資その他の資産			
投資有価証券	30,000,000		
敷金	2,253,558		
長期前払費用	30,994		
投資その他の資産計	32,284,552		
固定資産合計		348,072,097	
資産合計			1,567,328,572
Ⅱ．負債の部			
1　流動負債			
未払金	20,449,898		
前受金	4,000,000		
預り金	705,244		
未払法人税等	100,000		
流動負債合計	25,255,142	25,255,142	
2　固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			25,255,142
Ⅲ．正味財産の部			
前期繰越正味財産		1,346,452,551	
当期正味財産増減額		195,620,879	
正味財産合計			1,542,073,430
負債及び正味財産合計			1,567,328,572

2023年3月期　計算書類の注記

１．重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日　2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法を採用してます。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

定率法を採用しています。

（３）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2.固定資産の増減内訳

（単位:円）

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
海外土地	406,029	0	0	406,029	0	406,029
海外建物	208,822,711	43,428,900	0	252,251,611	29,878,045	222,373,566
海外建物付属設備	35,493,592	7,139,909	0	42,633,501	10,093,456	32,540,045
国内建物附属設備	440,000	0	0	440,000	281,673	158,327
海外構築物	14,622,066	0	0	14,622,066	4,039,754	10,582,312
海外車輌運搬具	27,138,904	0	0	27,138,904	23,261,108	3,877,796
国内什器備品	370,905	0	0	370,905	313,009	57,896
海外什器備品	113,726,491	12,973,429	0	126,699,920	102,829,051	23,870,869
一括償却資産	715,214	0	0	715,214	715,214	0
建設仮勘定	14,667,770	0	9,812,462	4,855,308	0	4,855,308
無形固定資産						
ﾐｬﾝﾏｰ土地賃借権	22,610,708			22,610,708	5,545,311	17,065,397
ソフトウェア	1,113,000			1,113,000	1,113,000	0
投資その他の資産						
敷金	2,134,558	119,000	0	2,253,558	0	2,253,558
保証金	502,964	340,916	100,060	743,820	712,826	30,994
合計	442,764,912	64,002,154	9,912,522	496,854,544	178,782,447	318,072,097

令和4年度　財産目録

令和5年3月31日現在

(単位：円)

科　　目	金　　額		
Ⅰ．資産の部			
1.　流動資産			
現金預金		1,197,291,148	
手元現金	48,406,289		
三菱UFJ銀行普通預金	97,266,792		
三菱UFJ銀行普通預金	2,553,227		
三井住友銀行普通預金	91,323,254		
朝日信用金庫普通預金	29,998		
佐賀銀行普通預金	286,172		
ゆうちょ銀行普通預金	2,521,345		
ゆうちょ銀行当座預金	700,113,733		
ゆうちょ銀行当座預金	7,218,580		
ゆうちょ銀行当座預金	164,735		
ゆうちょ銀行当座預金	978		
朝日信用金庫定期預金	10,000,000		
Foreign Trade Bank 1年 定期預金 №1	18,310,024		
Foreign Trade Bank 1年 定期預金 №2	9,944,997		
Foreign Trade Bank 6ケ月 定期預金 №3	12,017,700		
ABA BANK 1年	40,059,000		
Foreign Trade Bank of Cambodia ﾄﾞﾙ預金	63,993,281		
Canadia Bank/of Cambodia	1,335		
ABA Bank Payroll Cambodia	4,620,342		
ABA Bank Cambodia	28,312,130		
ACLEDA Bank Cambodia	12,170,547		
三菱UFJ銀行 ユーロ口座	8		
三井住友銀行 ドル預金	14,525,735		
BCEL ＄ ﾗｵｽ	1,359,395		
BCEL KIP ﾗｵｽ	292,540		
BCEL KIP 寄付用ﾗｵｽ	237,062		
Myanma Foreign Trade Bank USD ﾐｬﾝﾏｰ	0		
Myanmar Economic/Bank	3,351,140		
KANBAWZA BANK USD ﾐｬﾝﾏｰ	13,284		
Kasikorn Bank(THB) ﾀｲ	0		
BCEL KIP 寄付用	0		
WING Cambodia	48,954		
ASIAWEILUY Cambodia	75,497		
KANBAWZA BANK MMK	20,866		
KANBAWZA BANK MMK SC	1,525,582		
Foreign Trade Bank Cambodia	66,967		
ｾﾝﾄﾗﾙ短資FX㈱ 円預金	23,775,648		
ｾﾝﾄﾗﾙ短資FX㈱ ﾄﾞﾙ預金	2,670,600		
Myanma Foreign Trade Bank JH	13,411		
ﾐｬﾝﾏｰ国営銀行	0		
棚卸資産			
書籍	810,666		
前払費用			
海外家賃等	3,716,764		
立替金			
社会保険料等立替金	295,072		
仮払金			
海外事業仮払金等	843,228		
未収金			
医療支援活動に係る費用弁償代等	3,810,000		
3月 決済分寄附金	11,989,597		
ツアー企画料	500,000		
流　動　資　産　合　計		1,219,256,475	
2.　固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物			
ﾐｬﾝﾏｰｽﾀｯﾌ宿舎	4,262,225		
ﾐｬﾝﾏｰｽﾀｯﾌ宿舎 追加工事	332,752		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院建設	34,604,089		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ小児科医療ｾﾝﾀｰ	65,856,798		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院 外来待合室	1,460,424		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院 ｽﾀｯﾌﾊｳｽ	32,049,909		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院 ｽﾀｯﾌﾊｳｽ 階段/手摺工事	444,006		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院 AAMC病院給食ｾﾝﾀｰ	29,025,657		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ人 ｽﾀｯﾌ新宿舎	9,021,333		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ人 ｽﾀｯﾌ新宿舎 1階追加工事	2,263,856		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院 研修棟	43,052,517		
建物付属設備			
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院 変圧器等	2,027,931		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院 陶器手洗器設置工事 分水工事	463,189		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院 患者用導線屋根	237,209		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院 変圧器(増設)	2,690,177		

ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　AAMC病院給食ｾﾝﾀｰ　厨房機器一式	16,875,758		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　電気ｹｰﾌﾞﾙ　Phase1.2	1,104,369		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　電力制御ｼｽﾃﾑ　Phase1.2ｹｰﾌﾞﾙ	242,002		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　発電機室	708,684		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　女子寮屋上　断熱材設置工事	228,026		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　宿舎№2　排気ﾀﾞｸﾄ設置工事	67,469		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　病室改造工事	641,941		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　洗濯場改造工事	531,549		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　ﾄｲﾚ改造工事　Phase2	2,692,863		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　AVR発電機　3P　400KVA	3,384,099		
東京事務局　ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ	158,327		
DT図書館　ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ内装改造費	303,760		
発電機　配電施設　ﾐｬﾝﾏｰ専門医	341,019		
構築物			
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　舗装工事等	542,486		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　浄化槽埋設工事・掘削工事	1,334,787		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　外来待合室前　舗装工事	221,311		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　貯水ﾀﾝｸ4台設置工事	447,306		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ小児病棟前　ｺﾝｸﾘｰﾄ道路工事	220,114		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　ｽﾀｯﾌﾊｳｽ　給水タンク	281,431		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　発電機　Phase1.2 停電時使用	3,325,566		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　駐車場工事	186,197		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　貯水タンク5,000L	83,613		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　排水管の設置（病院からの排水）	219,160		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　排水管の設置（病院Phase1前）	234,034		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　phase1 舗装道路	859,223		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　浄水器　ﾊﾟｲﾌﾟ追加設置工事　behind phase2	123,208		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　浄水器　behind phase2	506,506		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　太陽光発電ｼｽﾃﾑ装置　DREAM　Train	764,408		
DREAM　Train　ﾌｪﾝｽ（図書館裏から事務所裏）	337,815		
DREAM　Train　ﾌｪﾝｽ（事務所裏から女子棟裏）	128,754		
DREAM　Train　ﾌｪﾝｽ（ﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ場）	337,984		
DREAM　Train　貯水タンク　図書館設置	142,429		
DREAM　Train　ﾌｪﾝｽ（隣接した別の養育施設との間）	285,980		
車輌運搬具			
車両　10台	3,877,796		
工具器具備品			
医療器具等	23,928,765		
土地			
ﾐｬﾝﾏｰ	406,029		
建設仮勘定			
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院	4,855,308		
有形固定資産計	298,722,148		
(2)無形固定資産			
借地権			
ﾐｬﾝﾏｰ土地賃借権	17,065,397		
無形固定資産計	17,065,397		
(3)投資その他の資産			
投資有価証券	30,000,000		
敷金			
東京事務所	354,200		
佐賀県佐賀市　川上ﾘｿﾞｰﾄA号室	89,000		
黒崎地所　ｻﾝﾀﾞｰﾋﾞｮｰ富山	30,000		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ事務所	748,902		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　宿舎	676,080		
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ病院　宿舎	267,096		
ﾗｵｽ事務所	88,280		
長期前払費用			
台東区寿事務所　保証金・礼金等	30,994		
投資その他の資産計	32,284,552		
固　定　資　産　合　計		348,072,097	
資　産　合　計			**1,567,328,572**
Ⅱ．　負債の部			
1.　流動負債			
未払金			
給与・医療支援活動に係る費用等	20,449,898		
前受金			
長期研修参加費	4,000,000		
預り金			
源泉所得税等	705,244		
未払法人税等			
2022年度法人税住民税事業税等	100,000		
流　動　負　債　合　計		25,255,142	
2.　固定負債			
	0		
固定負債合計		0	
負　債　合　計			**25,255,142**
正　味　財　産			**1,542,073,430**

監事監査報告書

私は、特定非営利活動法人　ジャパンハートの 2022 年(令和 4 年)4 月 1 日から 2023 年(令和 5 年)3 月 31 日までの第 15 期事業年度の監査を実施しました。

事業報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録はいずれも適法かつ正確であることを認めます。

2023 年(令和 5 年)5 月 26 日

特定非営利活動法人　ジャパンハート

監事　大橋秀夫

第3号議案　　2023 年度　事業計画(案)

Ⅰ. 事業計画 / 海外

海外事業本部

1. 事業推進
・海外事業全体における中長期計画の再策定を実施。
・カンボジア: カンボジアでの新病院建設及び、開院に向けた調整業務
・ミャンマー: 高度医療支援活動の中期計画制定
・ラオス: 甲状腺疾患プロジェクト第 2 フェーズ開始の伴走支援及び、小児新プロジェクトの開始に向けたサポート
・デジタルデバイスを利用した医療活動の計画及び、展開をし、新たな医療活動の形を実現する。

2. 採用
・現地活動スタッフ(医療者、一般職員)の採用と教育を実施。
・現地で活動するい医師によるオンライン説明会(報告会)の実施。
・日本にいる OB/OG を始めとした関係医師のネットワーク構築。
・医療者リクルートの専用ページを作成。

3. 資金調達
・既存運用中の海外用寄付獲得システムの運用整備をし、現在の寄付者数対比 120%を獲得を目指す。
・海外(アジア)事業における事業インパクトレポートを作成し、主にアジア進出を考慮する法人などに対し FR 活動に繋げていく。
・助成金の獲得に向けて、調査と申請を行う。

ミャンマー

1. 医療活動

1)ワッチェ慈善病院を拠点とした医療活動
・ワチェ慈善病院での日本人医療者参加による手術活動を含む医療活動を継続し、コロナ以前の外来および手術実績以上に戻すことを目指す。
・ミャンマー人医療スタッフの医療技術および知識の向上を目指し、連携病院等でのトレーニング体制を整備する。
・「Reinbow Bridge Clinic」の広報を行い、認知度アップおよび受診患者数の増加を目指す。
・モバイルクリニック(遠隔地往診)をミャンマー各地で年 20 回を目標に行い、医療アクセスの向上を図る。

2)その他の医療活動
・口唇裂・口蓋裂総合治療事業の継続、その他のヤンゴン子ども病院をはじめとする国公立病院への日本人専門家派遣による医療活動を再開させる。
・自前での病院建設も含めた中長期的なミャンマーでのこども医療支援のためのリサーチを進行する。

2. ミャンマー医療人育成事業

引き続き新倉会の協力により、奨学生5名(医学生2名・看護学生3名)に支援を行う。

3. 社会福祉関係

1)養育施設 Dream Train(ドリームトレイン)

・養育チームと教育チームの連携を強化し、児童一人一人の成長の推移を多角的に見守るシステムを構築する。
・上記を利用し、個々の特性や目標に合わせた教育機会を提供する。
・外部企業・団体と連携し職業訓練や社会体験の質を高め、児童が希望する職種への就職率向上と離職率低下を目指す。
・安全かつ継続的に長期ボランティア、またはインターン 2 名を確保する。

2)ミャンマー視覚障がい者自立支援活動

・1 年間の医療マッサージトレーニングプログラムを継続する。
・情勢を見ながら、「視覚障害者全国セミナー」実施を検討する。

3)サイクロン孤児支援活動

8名の子どもの状況に合わせた、学費および医療費の支援を実施する。

カンボジア

1. 医療活動

1)ジャパンハートこども医療センター

2025 年の新病院建設を見据え、今年はカンボジア現地の医療スタッフの育成と、ジャパンハートの活動に共に取り組む日本人ボランティアの受入れを促進していく。新病院の運営には現地スタッフの更なる能力向上、対応できる業務の幅を広げることが不可欠である。現状まだ確立していない教育体制を作り、カンボジアのスタッフ同士が教育を行う体制を目指す。
また、ジャパンハートが対応できる医療の領域を広げていくこと、今後の新病院の安定運営を目指すうえでも日本人の医療者が関与することが必要。新型コロナウイルスの感染拡大の収束に伴い、より一層日本人医療者の受入れを加速し、人材の確保や病院全体の能力向上を目指していく。

2)提携病院での活動

これまで活動を続けていた連携病院との手術活動についてはこれまで通り実施していく。また、ヘルスセンターへのモバイル活動に関しては活動内容の改善を行い、モバイル先で関わった患者が継続的に病院にかかれるかたちへと変えていく。
チュンプレイ病院、ロカカオン病院、チャムカルー病院などでは、診療や手術活動、それに伴う日本人看護師の長期滞在を行っていく。ヘルスセンターへは周産期事業部での母親学級や妊婦検診、診療部での外来診療などを実施していく。プレイクラー州の小学校での健康診断に関しても継続的に実施していく。

3)新病院建設プロジェクト

「助かるはずの命を助かるはずだった命にしない」ためにカンボジアにて持続的に高度医療を提供し、更なる支援領域拡大の為プノンペン近郊のタクマウにチャリティのこども新病院を建設する。
建設する目的は、1、人材確保　2, 中央病院との連携　3, インフラ の3点を強化したい為。
ジャパンハートこども医療センターとの協業を前提とし、新病院のコンセプトを作成し、準備を開始。
総予算は 10 億円程となる予定で、大型の費用を要するため現在助成金や寄付金を募る為の計画も同時に進行している。

2. 医療学生　奨学生支援活動

新年度の奨学金候補生の選定は終了している為、適宜フォローアップをしていく。医学生・医師に関しては、ジャパンハートカンボジアが注力している小児科、外科、小児外科、産婦人科について、専門コースへの進級を許可し、専門医を育成する。

3. 新しい広報活動の取り組み

1)カンボジア国内における認知度向上

小児がんや先天性疾患の早期発見ににつながるよう、ジャパンハートこども医療センターの認知度を高める発信や啓発を行う。カンボジア国内の政府機関、病院、大学などとの連携を強化し、病院の安定的な運営や患者の紹介や情報交換、採用活動の強化を行っていく。

2)ファンドレイジング

カンボジア国内の企業や個人からの寄附獲得へ本格的に取り組んでいく。新病院プロジェクトを切り口に、企業訪問や個人支援の働きかけを実施していく。

ラオス

1. 医療活動

1)ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療・手術プロジェクト

第 2 フェーズについて、内分泌外科学会と連携を行う。同学会所属の医師による指導協力を得ながら、活動を 5 回/年行えるようにする。

また、開始に向けて、指導内容の明確化に取り組む。

2)個人診療

2 名の患者について、引き続きそれぞれのサポートを行う。

1 名の斜顔裂の患者については、カンボジアにて、日本人医師による手術活動を実施予定。

3)小児プロジェクト

政府に提出した申請書は、12 月から 1 月辺りに承認される予定。それまでに、日本で協力してくださる医師の調査渡航や、実際の手術計画などの準備・調整を行う。

また、活動費用に充てられる助成金の獲得を、海外事業本部と連携して進めていく。

4)広報・ファンドレイジング活動

ラオス国内での Facebook や Youtube を使った広報活動を継続する。

また、ラオス国内での寄付集めや財団設立に向けて再度調査し、国内で資金がある程度賄えるような仕組みについて検討する。

地域医療支援・国際緊急救援事業

2023 年度は前年度に引き続き、各既存事業の強化・地域医療支援分野での新規事業の立ち上げ・組織体制強化を予定している。

1. 事業共通

広報人員を採用予定。事業部として広報的発信の強化を行う。

2. 国際緊急救援事業

1. 組織内部強化

外部災害関連研修受講等によるメンバー自身の専門性向上と、バックオフィス体制強化

2. 自然災害時緊急救援

a. 人的支援
緊急時の災害内容に合わせた初動持参備品等の整備と内容向上。また海外活動地における支援訓練の企画と実施を予定

b. 物的支援
2022年度に支援企業と共同開発した災害時寄付物資マッチングプラットフォーム「Heart Stock(災害版)」の物資備蓄拠点を、現在の佐賀県・富山県に続き、追加で1カ所開設予定

3. iER ボランティア登録制度

a. 新規登録数
各回実地 20 名にて開催予定
・第 11 回研修:7 月 22 日(土)～23 日(日)に東京会場で開催予定
・第 12 回研修:12 月開催予定

b. 既存登録者ステップアップ研修
医療従事者向け、ロジスティクス向けとして各年 2 回(計 4 回)実施予定
・医療ステップアップ研修:2022 年 8 月、2023 年 2 月開催予定
・ロジスティクスステップアップ研修:2022 年 10 月、2023 年 3 月開催予定

4. 国内外ネットワーク作りと強化

a. 自治体・企業・医療機関との協定
平時の体制構築として、有事の際の協働先の拡大を予定

b. 学会発表
2023 年 3 月日本災害医学会での発表を予定

3. 地域医療支援

1. RIKA Job

1.1. 派遣者数の増加
本年度から各病院から取り寄せた必要看護師人数を適宜アップデートしつつ、派遣者数の拡大を目指していく。そのための募集強化方法として、以下のような施策を実施
・RIKA Job 説明会の年 4 回開催
・RIKA Job 個別相談会の適宜開催
・JH 本体 HP と RIKA JobHP との導線整理や広告展開

1.2. 病院との関係強化
病院側のコミットメントを更に促すため、定期的な情報提供や広報協力、派遣者フォローなどのタスクを設定し、協働を促進する

1.3. 派遣者フォロー
・研修生:グローバル人材育成事業部との連携のもと、病院活動期間の充足を計る
・RIKA Job 派遣者:初月と最終月のフォロー面談の実施など、派遣期間延長に繋がるような派遣者とのコミュニケーション機会を創出していく

2. 佐賀事務所

伊万里事務所から佐賀市内に事務所を移転し、人員を最大 2 名雇用することで、佐賀県内での緊急救援事業拠点強化や RIKA Job 事業展開等を実施予定

Ⅱ. 事業計画/ 国内

SmileSmilePROJECT

小児がんと向き合うご家族や医療関係者に活動が浸透してきており、依頼件数や協賛企業の問い合わせは年々増加傾向にある。新規スタッフ2名を迎え、多くのニーズに応えることができるよう体勢強化

していきたい。スタッフの自己研鑽の機会の確保、小児がん拠点病院以外の医療機関との関係構築、SSP を通して海外の支援にも目を向けていただくような取り組みを新たに実施したい。

1. スタッフ自己研鑽の機会の確保
年々、医療的ケアの必要度が高いお子さまの帯同が増えており、知識や技術のアップデートをすることでより安心な時間をご家族に提供できると考えるため、スタッフには小児がん関連の研修会参加など自己研鑽の機会を積極的に作る。

2. 具体的な活動内容

・個別企画のお問い合わせ 100 件、30 件実施を目指す。
・ボランティア説明会を定期開催し、活動参加・支援それぞれの目的を叶える内容に。
・招待企画は 17 件実施を目指す。
・旅行に繋がりにくいお問い合わせにも、私たちにできることを考え提案する。

3. 広報活動
・昨年度に作成したご家族向け・一般向けパンフレットを多くの方に届ける。
・SSP を入り口とし、海外での活動にも関心を持っていただける講演会・関わりを積極的に実施。

Ⅲ. グローバル人材育成事業

グローバル看護師・助産師人材開発/実践コース（旧国際看護師・助産師研修）

1）**コース応募者数の増加**
ジャパンハートのビジョン・ミッションをより体現できる看護師・助産師を輩出するため、長期目標としてコース参加者の質の向上を目指す。そのひとつの方法としてコース応募者数の増加を目指して web サイトや SNS を活用した情報発信、対面での説明会や相談会などの広報活動をより強化する。

2）**コンピテンシーモデルの設定**
コースで目指す看護師・助産師の行動特性を具体化し、コンピテンシーモデルを設定することで評価基準が明確になり、コース受講者の参加前後の変化を可視化できる。将来的にはコース受講生に限らず、組織全体の看護師・助産師が目指すモデルとなることを想定する。来年度以降の活用にむけて、今年度はまずコンピテンシーモデルを作成する。

3）**コース修了者から看護師スタッフの増加**
コース受講中は個人の能力を発揮しながら課題達成できるよう、引きつづき各現場と連携してサポートを行う。同時に、コース修了後にスタッフとして活動できる人材の輩出も目指す。修了生がスタッフとして活躍することで医療現場の看護体制の強化とともに、コース修了者がモデルとなり、後世の育成に積極的に携わる循環を期待する。

4)コース修了生との連携
コース修了した看護師・助産師は、海外の医療現場に限らず、日本の医療現場、また教育現場における講義・講演のほか、進学するなど幅広く活動を行っている。そこでコース修了生とさらに連携して団体主催の交流会や説明会等で情報発信を行っていくことで、日本の看護業界への波及を期待したい。

Ⅳ. 広報・ファンドレイジング事業

広報活動

1. 支援拡大へ向けた団体の認知拡大、社会価値向上

1)各種アワードへの応募

今年度も各種アワードへの応募を継続し、団体の社会価値向上に努めていく。

2)ウェブサイトの運用と情報の充実化

団体のオウンドメディア(webサイト、各種 SNS 等)についても、コンテンツの充実と有償・無償の WEB 広告の活用によって、受動的な支援案件の増加を目指して充足を図る。

3)メディアへの露出を強化

吉岡秀人ほか、国内外の活動地で活躍するスタッフのタレントを発掘し、オウンドメディア等で発信し社会価値化を進め、メディア露出等に繋げる。また、メディアとのリレーションシップを強化し、オウンドメディア以外からの発信が行える体制を構築する。

4)活動レポートの発信

2023 年 2 月のカンボジア医療事情に関するレポートと同様、今後年 1 回程度の定期的な海外医療事情に関する団体独自のレポートを発信していく。

ファンドレイジング

1. マンスリーサポーターの増加

団体の財務基盤となるマンスリーサポーターについては、WEB 広告の継続に加え、講演会等での加入促進方法の見直しを行い、継続寄付者の増加を図る。また、2020 年に構築した支援者コミュニティ「ジャパンハート部」内のコミュニケーション強化や、SNS、メールマガジンは支援者のペルソナに基づいたきめ細やかな発信を行い、退会者の減少を目指す。

2. カンボジア新病院プロジェクト

2025 年開院に向け、2023 年度から 2024 年度にかけて総額10億円規模のファンドレイジングを行う。個人向けには、2023 年 5 月よりクラウドファンディングを開始することに加え、個人の大口寄付獲得を狙うべく「病院名誉ファウンダー」への呼びかけを行う。また、法人向けには既存支援者に対する営業活動を引き続き実施すると共に、イベントの開催等を通じて企業との接点を増加する施策を実施。

3. ふるさと納税の継続

返礼品数を増加し、昨年度より 1.5 倍の金額および件数獲得を目指す。

5. 遺贈・相続

団体オウンドメディアでの情報充実化、遺贈特集等への積極的広告出稿を行うとともに、専門性を持つ遺贈コンサルタントの伴走支援を受け、受付体制を整えつつ、士業、信託銀行等との関係性を強化する。

支援者サービス

1.支援者さまとのコミュニケーションの強化

高額寄付者及び継続的にご寄付をくださる支援者さまへのアンケートやヒアリングなどによるニーズの把握を行い、コミュニケーションをより充実したものにする。特に、継続してご寄付を頂いている支援者さまとのコミュニケーションの場の種類を増やし、ジャパンハートへコミットすることへの満足度を強化する。

2.日常業務のクオリティの向上

お問い合わせ対応、領収書発行、活動報告の発信、感謝状の贈呈などの日常業務において、更なる質の向上を目指すことで、支援先としてジャパンハートを選択したことの満足度を向上させる。

Ⅴ. 管理・組織・人材（ボランティア事業含む）

1. 採用活動
・部長職及び、部長候補職の完全獲得（欠員 0）を目指す。
・新卒採用の仕組みを作り、次年度のからの実施ができるような体制を構築する。

2. 人事
・入職後の職員研修制度（新卒・キャリア）の設計と充実化を行う。
・人事評価制度の導入に向けた設計とトライアルの実施。

3. 労務・総務管理
・労務総務関連の手続きに関するマニュアルを作成。
・職員データベースの統合/充実化。
・備品管理に関わるシステムを整える。

4. 経理
・様々な変化（法改正・制度変更・新規事業）への対応準備と、資金調達に向けた数字の提示と情報共有を行う。

5. ボランティア事業
・短長期ボランティア事業の Vision や目的の明確化を行い、可視化する。
・ツアーを年間で最低 6 本は実施。その他、現在設けられている医療者及び、医療学生向け以外のツアーについても実施を検討し、ツアー参加におけるさまざまな付加価値を見出す。

（正）
第4号議案　　2023年度　活動予算書（案）

2023年4月1日から2024年3月31日まで　　（単位：円）

科　目		予算額(税込)	前年度決算額(税込)
経常収益			
	受取会費	17,900,000	18,080,000
	受取寄附金	1,394,970,000	749,368,244
	受取助成金等	37,200,000	26,836,170
	事業収益	22,142,000	11,502,011
	その他収益	1,000,000	45,387,575
	当期経常収益合計　A	**1,473,212,000**	**851,174,000**
経常費用			
	【事業費】	**689,524,944**	**612,066,271**
	人件費	305,338,656	248,386,107
	顧問・ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ料	400,000	739,913
	業務委託費	25,131,000	6,811,870
	通信運搬費	4,726,480	21,107,456
	医療支援費	63,068,145	53,931,878
	学業支援費	10,400,000	12,303,113
	子ども支援費	22,796,480	17,304,395
	医療者育成費	15,852,320	4,836,418
	水道光熱費	9,162,000	7,792,774
	医療器具・備品費	3,657,680	2,895,774
	旅費交通費	43,316,665	31,579,845
	広告宣伝費	46,473,500	12,570,922
	ｾﾐﾅｰ･ｲﾍﾞﾝﾄ開催費	4,801,000	52,948
	研修費	1,480,000	1,157,881
	海外スタディツアー開催日	0	0
	会議費	1,435,025	639,442
	接待交際費	602,607	239,898
	消耗品費	9,920,736	116,323,885
	寄付受贈分	0	0
	食材費	11,500,000	13,384,993
	新聞図書費	84,400	37,943
	印刷製本費	3,105,750	2,561,688
	工事・修繕費	4,527,000	4,485,490
	賃借料	200,000	339,594
	地代・家賃	10,276,000	13,450,419
	減価償却費	42,000,000	26,499,277
	車両費	5,226,300	4,844,971
	保険料	2,538,625	3,091,309
	諸謝金	343,000	264,411
	諸会費	85,000	345,719
	リース料	210,000	307,000
	支払手数料	36,450,100	2,412,091
	租税公課	700,000	784,991
	雑費	3,716,475	358,573
	寄付金支出	0	0
	期首棚卸高	0	1,021,247
	当期書籍仕入高	0	115,500
	他勘定振替高	0	▲ 102,798
	期末書籍	0	▲ 810,666
	【管理費】	**42,690,842**	**38,853,929**
	人件費	17,759,186	15,774,735
	業務委託費	2,940,000	3,314,644
	通信運搬費	940,000	997,829
	水道光熱費	784,000	472,698
	旅費交通費	156,000	86,004
	研修費	10,000	0
	会議費	5,000	3,045
	接待交際費	0	0
	消耗品費	800,000	1,162,879
	印刷製本費	360,000	275,811
	工事・修繕費	0	13,200
	賃借料	0	0
	地代・家賃	7,790,600	5,414,070
	租税公課	40,000	10,719
	租税(消費税)	0	0
	諸会費	285,000	139,800
	リース料	34,056	34,056
	支払手数料	9,700,000	9,511,356
	新聞図書費	0	0
	車両費	0	0
	保険料	0	122,660
	慶弔費	0	0
	広告宣伝費	1,000,000	880,000
	雑費	87,000	63,560
	減価償却費	0	576,765
	雑損失	0	98
	当期経常支出合計　B	**732,215,786**	**650,920,200**
	当期経常増減額　A－B	**740,996,215**	**200,253,800**

第5号議案

役 員 改 選

新役員候補者

（敬称略）

理事(4名)

理事　　吉岡　春菜(よしおか　はるな)　　（重任）

理事　　神白　麻衣子(こうじろ　まいこ)　　（重任）

理事　　西井　敏恭(にしい　としやす)　　（重任）

理事　　榊　淳（さかき　じゅん）　　（重任）

監事(1 名)

監事　　大橋　秀夫（おおはし　ひでお）　　（重任）